

2022 年 6 月 20 日

学校法人三幸学園
大阪ビューティーアート専門学校
校長 真野 正道 殿

学校関係者評価委員会
委員長 小峰 英樹

学校関係者評価委員会実施報告

2021 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 小峰 英樹 (有限会社 BIZ GATE 取締役専務)
- ② 木田 康隆 様 (ステーションカンパニー株式会社 本部次長)
- ③ 村田 真利亜 様 (和風エステサロン 桜 Biscuit オーナー)
- ④ 齋藤 貴雄 様 (飛鳥未来高等学校 大阪キャンパス キャンパス長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2022 年 6 月 20 日 (会場 大阪ビューティーアート専門学校 402 教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2021 年度 学校法人 三幸学園 大阪ビューティーアート専門学校

自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：教務課長 笠原 美聡

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 小峰 英樹

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる(皆をハッピーにする)人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

目標

- ・コロナ禍における授業を工夫し生徒満足度を高めるとともに検定合格率も高める
- ・保護者との連携を強化し生徒の心身をサポートする
- ・コロナ禍の求人減少を踏まえ、就職サポートを充実させる

目標に対する振り返り

2020 年度同様、2021 年度もコロナ禍で、授業はオンデマンド配信と分散登校のハイブリット型で進行した。学校に通えることに喜びを感じている生徒も多かったが、反面オンデマンド授業などの学びの機会についても、各教員の動画撮影の工夫もあり自分のペースで学べる、わかりやすいなどの声も上がった。2 年間を通してカリキュラムを十分に履修できるように実践した。結果としては、美容師国家試験の合格率も上がり、美容科、ヘアメイク科の合格率は 96.8% 美容研究科 100%の実績だった。トータルビューティー科のシデスコ国際ライセンス試験においても 100%の合格率だった。

保護者様と連携を取り、生徒を心身ともにサポートできるよう努めた。通信制高校卒業の生徒で、毎日の登校に不安を感じている、授業に付いていくことができるか、友人関係で問題が起こらないかなど、問題を抱えている生徒を集め、5 月に通常のオリエンテーションとは別に集まる機会を設けた。新入生と先輩、約10名程度で実施した。結果、その生徒たちは年度末まで退学せず登校することができた。

2020 年度に就職希望をしてもコロナ禍で求人が少なく、就職できなかった卒業生へ就職サポートと支援強化のフォローを行った。また、2021 年度卒業生については、就職決定率も昨年度より上がった。

2023 年からはトータルビューティー科の生徒を対象に、有給インターンシップ制度を導入する予定。就職内定に

繋がる有意義なインターンシップになるように準備を進めている。

2020 年度から行事の開催が極端に減っていて、2021 年度も工夫しながら実施できたものの、大きな行事は中止になることもあった。行事は生徒の様々な力を伸ばす機会でもあり、特に協働力の弱い昨今の生徒にはチームで協力することの大切さを学ぶことができる機会となる。2022 年度はコロナも落ち着き行事も順調に実施できる予定。

① 学校関係者評価委員会コメント

小峯委員

コロナ禍もあり多種多様な働き方になってきている。特に美容室の店舗数は年々増えていることから人手不足に陥りやすく、簡単に離職する人が増えている。現場でも様々な働き方を検討したいと考えている。また、在学中から SNS を使いこなし慣れておくことは、将来サロンに努めたときに活かすことができる。反面、SNS 上で問題が起こった時の責任については学校も含め、サロンでも十分に認識させなくてはならない。

(美容科・ヘアメイク科)

木田委員

近年、離職率が増えていると感じる。入社当初から明確な目標を持っている方は少ない。サロン現場側も、様々なキャリアプランを検討し、卒業後に働くことが楽しみになるようにしたい。

トータルビューティー科のインターンシップについては、働く時間にもよるが、店舗で施術している技術を教えることができる。(トータルビューティー科)

村田委員

学校にお願いしたい事として、自己 PR できる生徒に育てて欲しい。今後、サロン業務をする際においても自分をアピールしないといけないことが多くなる。

また、SNS でも実際の接客でも、正確にお客様に情報を提供することは大切なことである。サロンでの販売においても、売らなくてはという意識よりも伝えることができれば勝手に売れると考えている。

更に、就職を目標にするのではなく、その後どうなりたいか、3 年後や 5 年後くらいまでイメージして仕事に臨んで欲しい。(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)

齊藤委員

主体性のある人材にするにも、まずは自己肯定感を持っている高校生が少なく、なかなかそのレベルに達しないことが多いので、まずは自己肯定感をもてるように指導している。専門学校でも同じようなことが言えるのではないかと。

高校を卒業して働く生徒もいるが、専門学校に入学し学ぶ生徒もいる。専門学校生だからといって甘やかすのは違うと感じる。社会人として活躍し夢を叶える為に、厳しい事に向き合うことが必要な時もある。(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

主体的に動く力、自ら考え自ら行動できる力、0 から 1 を生み出す力など昨今求められることが多くなった。
あわせて ICT を活用した教育も進んでいる。美容分野はお客様の個々の問題に向き合い、臨機応変に対応することが多く求められるので、ロボットでは出来ないことを主体的におこなえるように教育する必要がある。
また、面倒見の良さが学校の売りでもあるが、自主性を下げてしまう可能性もある。

② 今後の改善方策

引き続き、目指す人物像などは時折ホームルームなどで触れ、ブレないように指導する。

② 特記事項

なし

③ 学校関係者評価委員会コメント

小峰委員

最近の新入社員は言われたことしかできない人が多いので、次に何が必要かしっかり考えさせるようにしている。
例えば、スタッフに取引先への聞き取りを依頼したところ、お願いしたこと以上に何項目か聞いてきたスタッフもいれば、お願いしていた金額のみを聞いてきた人がいる。その様な仕事の仕方をもとに、スタイリストを対象に給料の価格差を付けた。スタイリストになると勉強をしなくなる傾向にあると感じる。一つの問いに 3 つ返答した人の方がお客様からの指名も多い。一つのことを頼まれた時に複数返せる力は大切だと思う。(美容科)

齊藤委員

高校では自己肯定感がない生徒が多い。過去がマイナスのものとして捉えており、過去の自分を認めたくないようだ。まずは、自己肯定感が高くなるようにしてから主体性などを身につけることが大切。

(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)

木田委員

自サロンでは、評価制度を見直している。目標を自ら考えて設定させる。会社が求めているものと違うことがあるので、半年ごとに振り返りを実施している。また、人事制度の見直しを検討しており、スキル部分の成長を評価に紐づけられないかと考えている。向上心を持って今の自分に満足しないでやり続けられるか、長い目で見ていかなければいけない。1 年目社員に求められている範囲を明確にすることも大切。上長が育成計画を立てて進めていく。(トータルビューティー科)

村田委員

大阪ビューティーアート専門学校で卒業生による講話に出席して話をした。既に将来経営をしたい生徒が 3 名いた。さらに自己研鑽して欲しいと感じた。

スタッフには、あなたの金額はいくらですか？と質問することもある。サロンでは売るのではなく勝手に売れるものだと感じていて、伝える力を身につけ正しくお客様に情報を伝えることが大切。サロンでも伝えたつもりが多い。

学校には、生徒を自己 PR できる人に育てて欲しいと思っている。自分を売れなければ商品紹介ができない。紹介を繋ぐためにも失敗を恐れず挑み続けて欲しい。

(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

情報システム化等により効率良く業務を進められるようになった。一方で、複雑な背景の生徒が増えており、担任における生徒対応の時間は増えている。

② 今後の改善方策

学年担任制(チーム担任制)を実施し、生徒対応の負担を減らす。

③ 特記事項

心の弱い生徒が増えている中で、どこまで指導をすればいいのか。例えば何月ごろまで優しく接し、いつごろから自律させるのか？など高校としてはどの様に対応しているか、お聞かせいただきたい。

卒業するころには社会人として、自律している事を目標にしている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

齊藤委員

甘やかすのは違うと感じる。社会人として活躍するレベルまで育成する必要があるため、時には厳しく接することが求められる。自分の決めた夢を叶えるには必要なことだと感じる。

毎日通う事が大切で、コミュニティー力も上げることができる。(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

生徒数が増加していることから、教員確保が難しい時期もあった。コロナ禍における教員の体調不良も重なった。将来サロンの SNS を使いこなして集客に繋げることができる状況が理想だが、現状、ビジネスアカウントを使いこなせている生徒が少ない。

② 今後の改善方策

引き続き、教員提供元の派遣会社を確保することや、リファーマル採用を強化する。
2022 年度も引き続き SNS ウェブフォトスキルの授業や自己プロデュースの授業を実施し、ビジネスアカウントを作成し充実させる。

③ 特記事項

2022 年度よりメイク教科書がデジタル化した。タブレットやスマートフォンで見ることができる。要所に動画で確認でき、自分自身のメイク作品を教科書内に保管することができる。保管した作品は 2 年間の成長も確認ができる。また、各メイクブランド、シャネルやマック、ディオールなどのホームページともリンクしている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

小峰委員

SNS の活用は、求人とお客様に向けての発信の 2 パターンある。人によって担当を変えて実施している。

しかし、SNS 投稿をノルマ化して負担になっていたこともある。無関心な方だと負担になる。サロン内でクリエイティブチームを作り任せるようにしている。

最近始めたばかりだと若い人のセンスについていけない。SNS ができないといけない時代になった。

しかし、万が一炎上したり、何かあったりした時に責任がどうなるのかもしっかり伝えておく必要がある。楽しさもあるが怖さもあることを十分に生徒には理解させなくてはならない。(美容科・ヘアメイク科)

齊藤委員

高校でも SNS の使い方は教えている。使う上でのルールや危険性もあることを伝えている。

木田委員

サロンが発信している SNS は、すべてサロンのアカウントを使っていて個人で運営しているものはない。但し、ホットペッパーブログは個人アカウントで運用している。エステティックサロンではインスタグラムによる発信が面白いが、動画配信が主になってしまうことが多く、写真も掲載したいところだが、エステティック技術を写真で表現することは難しくもあると感じている。つまり、伝える文章能力が足りず、写真をわかりやすく伝える能力を磨く必要がある。SNS に慣れていると、接客の時に生きてくる。(トータルビューティー科)

村田委員

1992 年生まれ以降が SNS を得意としている。自己ブランディングをいかにするかが大切。

最近ではグーグルなどで検索をするのではなく、インスタグラムで検索し、各個人やスタッフのインスタグラムからサロンのホームページに入ってくる方が増えている。自身のインスタグラムを管理し運営していると、自分の財産になると考えている。(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

2020 年度は学校への登校が少なく、行事も実施できなかったため、対人関係の摩擦も少なく退学率がかなり下がったが、2021 年度は登校の機会も増え、2020 年度と比較すると退学率が上がった。

2021 年度退学率 1 年 13.7% 2 年 3.3% 美容研究科(3 年) 5.2% 全体 9.0%

② 今後の改善方策

退学率を下げる取り組み、就職が楽しみになるような業界講話などを取り入れ、定期的且つ継続的な取り組みを実施していく。

今後も卒業生に来校していただき、先輩としてのアドバイスや業界のお話などをしていただく予定である。

③ 特記事項

2022 年 10 月に 1 年延期で開催を予定していた、技能五輪国際大会は、開催地であった上海がロックダウンしていたため準備が間に合わず、中止の運びとなった。

50 を超える職種が 2 年に 1 度、一堂に集まり、職種によっては 50 数か国から招致され

職業としての大会が開かれる。今回の中止を受け、すべての職種が同じ国に集まることは

不可能なため、職種ごとに名乗りを上げた国で、WSI ルールに則って実施される見込みである。

詳細は 6 月末に決定予定。選手のショックは大きい、この代替大会に向け追い込みをしている。

過去には 2019 年度に実施した前回大会で、ビューティーセラピー職種で卒業生が敢闘賞に選ばれていて、2 大会連続で日本代表選手を輩出している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

小峰委員

コロナ禍の影響なのか、他校で国家資格を技術で落とす学生が出てきたと聞いた。その様な国家資格に再チャレンジするスタッフの為に、今後はスタッフの働き方について様々な形を準備していく予定。早々に業務委託サロンを設ける予定。

オーナーになりたいと思う人、お金を稼ぎたいと思う人、クリエイティブな方向に力を注ぎたいと思う人、など多種多様になってきている。また、サロン数が増えていることから簡単に美容師を辞める人が増えてきた。

(美容科・ヘアメイク科)

齊藤委員

美容学校への進学が目的ではなくその先を見ることが大切。目的意識なくしてしまわないように、何のために働くのかを伝えている。卒業生の活用、業界のプロの話は興味深いと思う。

(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)

木田委員

就職してからの離職率も増えている。もっと就職が楽しみになるように尽力したい。現在キャリアアップ・独立・講師など、サロンでのキャリアプランをビジョン化しようとしている。

学生時代から将来が明確な人は少ないので、うまく橋渡しし、マッチングできればいいと思っている。

(美容科・トータルビューティー科)

鑛納教務主任

入社したあとに道が選べることは、生徒にとってはとても魅力的なこと。

村田委員

自身のサロンでは月に〇時間働けばいいと言っており、自分で時間をどのように使うのか計画させるようにしている。

今、世の中では“頭を使う仕事、体を使う仕事、心を使う仕事”があると言われている。

夢・目標を「就職すること」にフォーカスするのではなく、3年後、5年後まで考えられるように指導して欲しい。

(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

退学後の支援は、学校としても施し方が難しい。退学に至らない指導に力を入れていきたいと考える。

心の弱い生徒が増えているが、教員はそのことを理解しつつも、社会人として立派に育てたい気持ちもあり、指導方法が難しくなっている。生徒は褒められたい、注意をされたくない、場合によってはみんなの前では褒められたくない、と感じる傾向にあり、クラスメイトに無関心になっている。クラス一丸となる行事などの出席率が悪い時もある。

② 今後の改善方策

前頁でも触れたり組み以外にも、学年担任制(チーム担任制)を活かし、時には寄り添いながら時には自律を支援しながら進めたい。

2022 年度もスタプロプラス(入学者対象のオリエンテーションだけでは不安が解消できない生徒を対象にしたディスカッション)を実施予定。2021 年度の対象者は退学せずに登校できている。

③ 特記事項

2022 年度より卒業生対象の公式ラインを作り、卒業後のフォローを予定している

本校は喫煙を許可していないが、隠れて近隣で喫煙をする生徒もいた。

反省を促し、教員とともに地域清掃を行った。清掃しながら担任との会話を通してより深い反省を促し、繰り返さないようにしている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

笠原教務課長

三幸学園全体で卒業生を採用し、WEB で繋いで、コンテストに強い卒業生から直接指導してもらうことにしている。教員より卒業生・現場からの指導の方が強い効果がある。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

2021 年度の学外実習は、コロナ禍の影響で予定を延期し、春休みに実施した。また、トータルビューティー科の一部の生徒は 2022 年夏休みに実施を予定している。

美容室やエステティックサロン、ネイルサロンの受け入れ先は安定しているものの、美容部員やフォトスタジオは確保に苦戦している状況。

② 今後の改善方策

実習先は、百貨店以外にも化粧品販売を経験できる店舗と連携したいと考えている。

様々な企業様への求人活動を実施する予定

③ 特記事項

2021 年度にメイクルーム、ネイルルームを改装し、2022 年度より授業で使用できるようにした。

PPT を使った授業が取り入れやすく、現場で働くことが想像しやすい部屋になっている。

2023 年よりトータルビューティー科のインターンシップがはじまる。サロン現場でのアルバイトが学校での単位となる。半期 45 単位時間(38 時間)で 1 単位習得できる。

各委員の皆さんからインターンシップの提携についてのご意見を聞かせていただきたい。

④ 学校関係者評価委員会コメント

笠原教務課長

トータルビューティー科インターンシップ制度について質問したい。就職先は別になる可能性がある場合、技術の流出を懸念し受け入れを拒否されることがあるのか。生徒によっては、現状既に、就職を希望しているわけではないが、教科担当に先生の教育が楽しいから先生のサロンでアルバイトしたいと自分から希望する生徒も出てきている。美容科・ヘアメイク科についてはサロンでのアルバイトとしてご意見をいただきたい。

小峰委員

特に技術流出は考えていないので、アルバイトも積極的に受けたい。

通信制で働きながら勉強する人が増えているように感じている。お客様には触れさせられないが、早いうちにサロン体験してもらえるメリットがある。(美容科・ヘアメイク科)

木田委員

当社に入社希望していなくても技術は同じものを教える事が出来る。

お給料をもらいながらだと向上心が上がるのではないかな。内定者アルバイトは既に実施していて月に1、2回の出勤をしてもらっている。(美容科・トータルビューティー科)

村田委員

3日空くと技術力が確実に下がるので、週に数回であれば教えないほうがいいと思う。

何もできない、仕事がないと嫌になる。空気を読んで(見て)動いてもらうことになるのではないかな。(美容科・トータルビューティー科)

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

この部分については適切に運営されているため最善な状態を保つ

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

<2022 年度の状況報告>

【競合校とのシェア】

今年度は関西の美容学校で生徒数(国家試験受験生数)が 2 位になった。

<地方からの進学について>

コロナ禍で大阪の専門学校に進学せず地元の専門学校に進学するケースが増えていたが、また地方から出てくる生徒が戻ってきている。

オープンキャンパスに来られない高校生に向けて、オンラインオープンキャンパスを実施した。多くの高校生が参加し、遠方の高校生に学校の事を知っていただけるいい機会になった。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

この部分については適切に運営されているため最善な状態を保つ

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

個人情報の取り扱いには十分に気を付け、重要書類を職員室から持ち出さないようにしていたり、個人名の入っている書類はシュレッダーの徹底をしている。

オンデマンド授業などがはじまり教員は PPT の作成している。PPT に記載する写真や絵、図など、知らずに著作権に触れてしまうことが無いようにマニュアルの作成、会議等での周知をはかった。

生徒数の増加に伴い、教員 1 人 1 人の業務負担が大きくなり残業時間が増えることがあった。

体調管理をし、業務が偏らないように 2022 年度はチーム担任制を実施している。

教員同士、教員生徒間においてコンプライアンス違反にならないようなコミュニケーションを心がけ、ハラスメントに関する勉強会を会議でも実施した。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

SDGsについてはすべての1年生に教えている。自分たちは何が出来るのか、どの様に社会貢献出来るのか、自分がサロン経営者だったらどのような取り組みを実施するか等を考えさせている。

学校近辺の地域清掃に参加している。また、生徒が近隣に迷惑をかけないように姉妹校と協力して巡回をしている。

産学連携の取り組みとして今後ますます拡大していきたいと考えている。次年度よりインターンシップ制度もトータルビューティー科で始まるので、協力サロンを拡大する予定にしている。サロンワーク、学外実習、インターンシップ、就職と、企業様の現場の声を聞かせていただきながら、より主体的で即戦力になる人材を輩出していきたいと考えている。

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

地域貢献として、マスク時代のスキンケアやマスクメイクなどの講座をオンラインにて2月に開催した。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4
学内で適切な体制が整備されているか	4

① 課題

外国人美容師育成事業(東京で特区スタート)がはじまる。

② 今後の改善方策

大阪でも外国人美容師育成事業がはじまる可能性もある

③ 特記事項

2022 年度生は 2 名、ベトナムからの留学生が在籍している

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

2021 年度は、かなりコロナの影響を受けた 1 年だった。

このような状況の中で、学びを止めないという方針のもと授業スタイルを工夫した。座学はオンデマンドを活用し、実技は分散登校で実施した。感染対策を実施しながらも生徒の満足度や充実度が上がるように、クラス人数を減らし対応した。国家試験対策授業はすべて対面で行った。その他のコロナの影響としては、生徒同士のコミュニケーションの機会を減らさないようにしているものの、人に対する興味が薄くなっているように感じる。また、行事中止の影響を受け社会で必要な協働力を身につける機会が減った。

求人数が激減した美容部員希望者など就職未決定者のフォローとして卒業してからも週に 1 回 HR(就職対策授業)に無償で参加可能とした。元担任のフォローもあり決定までは継続してフォローした。

また、コロナ禍でオンライン面接試験が増えたため、近隣姉妹校でオンライン面接用に共同使える面接室を準備した。その他、動画による自己 PR や志望動機の提出など新しい選考方法が増えていて対応に

戸惑うこともあったが、姉妹校間の共有があり何とか対応できた。しかし、自校の教員も今後十分な指導ができるように情報収集を行わなければならない。

また、出来る限り生徒の美容への憧れや興味を保ち続けるために、対面では難しい技術披露もオンラインで実施した。パブリケーションのメイクアップアーティストと中継をし、講話をしていただき、国内のアーティストによる技術披露などを実施した。

コロナ禍で生徒たちに与える影響として、心の問題がある。コミュニケーションが得意な生徒は問題ないが、地方生や大人しく消極的な生徒は、クラスにうまく溶け込めず不安に感じることもあったと思う。近隣姉妹校合同で実施している専門家による心の相談室の活用を促したり、不安な生徒を集めたオリエンテーションなどを開いたりした。

これからも、コロナの影響だけではなく様々な心の問題を抱えた生徒が増える可能性がある。2020 年度に教員向けの学習コンテンツとして、様々な心の問題についての動画が配信された。社会が求めている人材とは離れるが教員として理解を深めることが大切になると感じる。

<追加質問>

小峰委員

就職活動において今までは 1 社受けると他を受けないと聞いていたが、併願受験する生徒が増えて
いるのか。(美容科)

<返答>

鑛納教務主任

サロンの考え方に準じている。美容室の大手企業は決定までに月日がかかるため、併願で進めることもある。

齊藤委員

ちなみに高校卒業で就職活動をする場合は、1 社のみ受験することが基本となる。10 月以降に 2 社目の受験が可能になる。

＜最後に＞

笠原教務課長

新しいことを取り入れながら、生徒たちがこの学校に入ってよかったと感じてくれ、各企業様からは、あの学校の卒業生はいいねと思われるような学校運営を目指していく。